

平成 20 年 9 月 13 日

東京フォーラム

於：湯島聖堂

## 中斎塾 東京フォーラム

### 平成 20 年 第 8 回講話

8 月はお休みを戴きました。御無沙汰を致しました。お元氣でしたでしょうか。

先程、皆さんで素読を致しました。氣持ちが良いものです。

テキストの『素読論語』は、理屈を考えなくて結構です。声を出して何度も読んでいると、<何と私は上手いのだろう>と感じるような仕組みになっている教材です。子供達に素読を教えたいというグループの方から、「是非教材に使いたい」というお話を戴いたり、あちこちで反響があり、嬉しい限りです。

素読は中身を考えなくても良い。ただ読んでいて、その中で何となく波長の合う言葉があったらそれを何度も繰り返して、自分の心の中に染み込んで来るのを待つ。染み込んで来たら、それからどういう意味かを調べた方が良くとお考え下さい。

では恒例の質問を致します。

「昨日一日、嘘をつかなかった方は手を挙げて下さい」

(・・・沢山手が挙がる)

「では、お目にかからなかった間の 2 ヶ月弱、嘘をつかなかった方はおられますか」

(・・・一人も手が挙がらない)

何度もお話していますが。私は寝る前に、次の五つの事をしています。

- 1 . 今日嘘をつかなかったか
- 2 . 今日良い日だったかな
- 3 . 今日「有難う」と心から言えたかな。相手に伝わったかな。
- 4 . 今日運動したかな
- 5 . 明日は良い日だったなと思って眠れたかな・・・これはちょっと難しいですが、明日の事を過去形で考えます。具体的には、明日のする事が上手く行って満足して眠る事をイメージします。明日の事・将来の事を過去形でイメージできるかどうか、その人の将来を左右するという事は、色々な所で説明されています。

生活習慣で、嘘をつかなかったと思って毎晩寝ていると、それがごく当たり前の事にな

ります。「嘘をつかなかった人」と聞かれて素直に手を挙げられると、良い日常生活・良い人生と繋がると思います。

それともう一つ、今日は良い日だったと言えると思います。日常生活を見渡していれば、嫌なことが沢山あります。でもよく見ると良い事も沢山あります。是非、<今日は良い事があったな・・・>と思う生活習慣をつけるとよろしい。

ブログにも書きましたが、ここ1、2ヶ月の間で、従来にない異常事態に日本が突入をしたと感じています。以前は、インフレとデフレのよじれ現象という言い方をしていました。アメリカはスタグフレーション（不況下における物価高）です。

ここ1、2ヶ月で急激に変わったと思うのは、インフレとデフレのよじれ現象の中に変化が出たことです。インフレの中に下がるものが出てきました。いわゆるPB商品（プライベートブランド）です。セブンアンドアイホールディングスがPB商品を扱ってディスカウントするお店の第一号を作ったり、イオンさんの新しいお店で、3割~4割は安い商品を置くという話があります。日常生活用品の中で値上がりする一方だったものの中に、下がる動きが始まった。インフレの中のよじれ現象が生まれたわけです。

デフレは、大きなもの重たいもの（土地・建物・車）はどんどん下がっていくと言われていました。ところが政府がデフレの終息宣言をする前に、勝手に値上がりが始まってきた。車の値上がりが始まりだし、パソコンも値上げをしました。デフレの中のよじれ現象が生まれたわけです。これは従来の経済学で説明のつくような話ではありません。異常な状況下に日本経済が突入したと感じました。

それを裏付けているものは、例えばサブプライムローンです。アメリカではもう行き着く所まで行きましたね。アメリカの住宅ローンの残高の半分以上を占める2社が立ち行かなくなって、政府の管理下に入りました。アメリカ経済は坂道を転げ落ちていきます。日本でもサブプライムローンは問題ないと言いながら、三菱UFJは3兆円強、みずほが1兆円強の損失を出しています。最近倒産した不動産会社は、表面から見ると上場している優良企業ですが、金融機関がお金を締めた途端に倒産です。

金融機関でも他の業種でもそうですが、支払いが一回でも遅れると取引停止にするような対応が変わっています。世の中が待ったなしの臨戦状態に入ってきたという事での対応です。このように日本経済が異常事態に突入したという実感は、身の回りを見ても感じます。身の回りを見ていると、お金に関するものがどんどん変わって来ています。

9月10日の新聞記事に、2007年度の国民生活基礎調査の記事がありました。厚生労働省の調査したのですが、それによると、一世帯あたりの年間平均所得は5百66万8千

円で、前年より3万円増えましたが、所得が平均を上回った世帯の割合は過去最多の61.2%。生活が苦しいと感じる世帯は、10年連続で過半数を占めたということです。所得額別の割合で一番多いのは13.2%で300万～400万の所帯、次に12.9%で200万～300万の所帯、3番目が11.7%で100万～200万の所帯でした。

私の実感を申しますと、例えば人が立っているとします。大地を踏みしめて立っていると、大地は硬くて動きませんが、所得が100～200万未満の人は、大地ではなく流砂の上に立っていると思います。その砂の下は流れているから、足を取られてひっくり返って流されてしまう。これは目に見えるようです。ですから自己防衛をしていかないと怖いと思っています。

自給自足の側面で見ると、最近、一台の車を4、5人で所有するカーシェアリングというような動きが既に始まっています。

「本日のテーマ」は、**浸潤の譚、膚受の愆**です。

「浸潤の譚」とは、さりげなく気がつかないうちに自分の心を揺さぶる。茹で蛙の状況にしてしまうものです。

今回の汚染米についても同じです。酒やせんべいやお菓子、その次は学校給食とか病院に迄広がっています。餃子の時は名前を覚えませんでした。とうとうメタミドホスという名前を覚えました。「浸潤の譚」とはこういう事です。農林水産省は「人体に影響はない」などとよくも言えたものです。日本の国民の安全を守るべき政府、拝金主義に毒されている企業、国民を並べてみると、てんでんバラバラです。ですから自分で自分の身を守るしかないと感じます。今のような日本経済・日本社会のよじれは、誰でも心の中に持っていると思います。

地球温暖化の問題やインフルエンザにしても、最近の世の中はおかしな事になっています。どうしてそういう事になっているのか。

人類が増えすぎたのではないかと思います。戦争で人が死ぬ。伝染病で人が死ぬ。大きな自然災害で多くの人が死ぬ。そういった自然淘汰の格好で、かつて人類は急激に人口を減らしました。またそういう時期が来ているのではないか、目に見えない力がどこかで働いているのではないか・・・と思ってしまうような現象が次々に出過ぎていきます。

例えば最近の新型インフルエンザの対応にしても、この1、2ヶ月の間で大分動きが変わりました。8月13日の読売新聞の記事に、新型インフルエンザに対して、イオン、NEC、東京ガスの対応が載っていました。

感染が始まったら毎朝家族の体温を測って出社を自粛するとか、営業や事務職の社員の自宅待機とか、感染防止のグッズを備蓄するとか、感染を防止するグッズに身を固め店舗閉鎖をして、外で対面販売の形式にするといった様々な対応を決めています。私が自社で決めているのは、世界のどこかでフェーズ4の段階になったら、社内を出勤停止にしようと思っています。

政府が出しているのは、「会社は仕事を続けて下さい。不要不急の仕事は止めて事業は縮小して下さい」という見解です。一見もっともらしく感じますが、滅茶苦茶な事を言っていますね。

「膚受の愆」は、急に言ってくる話です。

自分の身の回りをよく見て戴くとよろしい。知らず知らずの間に、「浸潤の譖」「膚受の愆」に堕ちる危険性があります。異常事態がじわじわ続いていると、当たり前だと思ってしまう。これが怖い部分です。

社会で見ると、世間の声は結構大きいので、じわじわ盛り上がってくると自分の進退を決めざるを得ない事が出て来ます。元社会保険庁の長官が最高裁判事になっていましたが、任期2年を残して辞任しました。大相撲の北の湖理事長も辞任しました。世間の声は、じわじわ来る圧力です。

世界全体を眺めていると、それぞれの国の人の心が荒んでいるし乱れているから、経済的にも社会的にもどんどん歪んだ方向に進んでくるように思います。それに歯止めをかけて良い方向に向かわせるには、<がつつかない><ほどほどで満足しておこう>という考え方がよろしい。分不相応の望みを抱くと、回りを破壊します。「今のお給料で結構です」という人ばかりなら、世の中に戦争は起きないだろうし、ひずみも出ないと思います。若干のプラス、ほどほどでいいという気持ちにしておかないといけない。それを我々はお互い学んでいこうと思います。

おかしいと思ったら「おかしい」と言うべきです。人間関係をぎくしゃくさせない為に言わない事がありますが、それではいけません。又、自分で自分を評価するとどうしても判断が甘くなります。忠告してくれる人を回りに持っておかないと、「浸潤の譖」や「膚受の愆」を避けられなくなります。

「心に残る言葉」で書きましたのは、大岡越前守が儒学を勉強したいと荻生徂徠に頼みに行った時に、荻生徂徠が答えた件の一部分です。

浸潤の譖、膚受の愆を見抜くのに、つけ焼刃の学問では見抜けない。長い時間をかけ

**て、身体に染みついた判断基準がなければ、見抜くことは不可能である。**

小さい頃からずっと儒学を習って、身に染み込んでいれば裁きの判断の基礎になるけれども、付け焼刃の学問では判断にならないからおやめなさい。自分が小さい頃から習い覚えたものでやってゆけば良い、ということです。

皆様も論語の素読を何度も何度も繰り返していると、自然と身体の中に入って、その言葉がふっと浮かんでくるようになれば素晴らしい。そういう言葉を見つけて戴ければ、それこそ知足の領域に入るのではないのでしょうか。

中斎塾フォーラムでは、皆さんにご自分の判断基準を持つように願っています。判断基準は何でも良いのです。肝心な事は継続です。

例えば、年収について考えます。自分の年収がこれくらいなら、中国の人達の年収はどうだろうか？ 格差社会ですから、下の方の人達の年収はいくら位か、上の方の人達はいくら位か？ 上の方の人達はどのような仕事をして、その収入を得たのか？・・・そう考えていくと、ポイントとしては、世の為になるような事をして収入を得ていけば胸を張っていられるということです。ところが自分だけ儲ければ良いという判断基準でいたら、そのうち逮捕される羽目になります。そのあたりの判断基準をお持ちになると良いと思います。

<世の中の為になる>、<正しい事をしている>と思うと、力の出方が全然違います。ものの考え方によって、生き方も相当変わると思います。

やる氣を出すには、私は<やる氣を出すスイッチ>を入れる事だと思えます。

陽明学の中で「致良知」という言葉があります。人間の心の中には、凄まじいエネルギーが眠っています。それを「良知」と言います。これは様々な解釈がありますが、私が信じているのは、自分の心の中にとてつもないエネルギーがあり、そのエネルギーは正邪の判断がない。そしてエネルギーが噴出した時に、良い方の出口から出る場合と、悪い方の出口から出る場合がある。良い方の出口から出る場合は、世の為・人の為に動くけれども、悪い方の出口から出ると世の中を破壊する動きになってしまう。ですから自分で自分を磨いておかなければいけません。ただエネルギーはもの凄い量があるから、エネルギーを噴出させるスイッチの入れ方は、努力すれば何とかなるだろうと思っています。

陽明学で私が好きなのは、自分が正しいと信じたなら正しいのです。誤解を招く所ですが、自分が正しいと信じたものは正しいと信じる氣持ちを貫けという事です。

やる氣を出すスイッチの入れ方には、三つ条件があります。

一番目は、自分が正しいと思った事を信ずる。

二番目は、長期の目標を持つ。目の前の問題を片付けたら、その先どう波及してゆくのか、組織全体に、地域全体に、又は日本の国全体にどういう波及効果があるのだろうか、できるだけ大局的に長い目でものを見る。それが出来れば、スイッチがカチンと入ります。

三番目は具体的に動く時に、積極的な言葉を常に出すことです。思っただけでは駄目です。

この三つのスイッチが入ると、動き方が変わります。自分の心の中でやる気が変わってきます。人から見ても変わった事が分かるし、自分の動きも変わってくる。ですからそのスイッチを入れる方法は、シムックスの道場で身をもって体験することができますから、どうぞお試し下さい。

<私は正しい> <正しいという事は世の中の役に立つ事だ> と信ずる心が強ければ強いほど、パワーが生まれると信じています。世の中の為になる事、良い事をやっていれば、必ず応援する仲間が生まれてきます。協力する人が現れない場合は、まだあまり世の中の役に立っていないくて、我田引水だけの動きになっているのだと反省していくと、必ず仲間が増えます。

この、やる気のスイッチを押す条件を言葉で言う、或いは文章で書くと、皆消えてしまうのです。上っ面の言葉だけ知っていると、知っている気持ちになります。言葉の根っここの所までずっと掘り下げて、自分の身体の中に染み込ませるようにして覚えたら、自分のものになります。是非そういう使い方をして下さい。

最後に、「達」と「聞」についてお話します。

論語の顔淵篇にあります。達人と聞人です。

聞人は、例えばマスコミにしょっちゅう出ていて虚名が広がっていますが、腹の中は空っぽです。テレビを見ていると、色々な評論家が出て来ます。この人は「達」かな？ それとも「聞」かな？ と思って眺めると面白いですね。上っ面の評論をする人が結構います。そういう人は聞です。解決策が出て来ません。

なるほどなと思うような解決策を言う人がいます。そういう人は知られたいと思って動いているのではなく、勝手に名前が少しずつ広がって行って、教えを請われる。これが達人の人です。

この人は達の人だ、この人は聞の人だ、と判断基準の一つで見ると面白いのでご紹介しました。

以上で本日の東京フォーラムを終了させて戴きます。有難うございました。